

とうきょう すくわくプログラム実践報告書(八王子市)

施設名	八王子市立子安保育園
-----	------------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

虫

<テーマの設定理由>

・「どうして園庭には虫がいないの？」という子どもの素朴な疑問から、テーマを設定した。子どもたちが自ら見つけた「なぜ？」という問いに向き合いながら、虫が住める環境について考えることで、自然や虫への理解を深め、遊びの充実につなげていくことをねらいとしている。

2. 活動スケジュール

5～8月 虫を呼ぶための環境作り

9月～ 改良、実験・虫探し

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・黒土、腐葉土、植物、プランター、コンテナ、木材、スコップ、虫かご、虫取り網、じょうろ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

園庭に虫がいないことを不思議に思った子どもたちと一緒に、「なぜ園庭に虫がいないのか」「どうしたら園庭に虫が来るのか」について考えた。話し合いの中で、園庭には植物が少ないことや、虫が卵を産むための土がないことが理由としてあがった。

そこで、公園へ虫探しに出かけ、公園にはどのような植物があり、どんな土があるのかを観察した。観察の際には、昨年度の活動で使用した図鑑パッドを取り入れ、植物や虫の名前を調べる姿も見られた。調べてわかったことをみんなでまとめ、園庭の一角に虫が来やすい環境をつくることにした。

子どもたちと一緒に土を入れ、植物を植えると、「水やりもしないといけないね」という声があがり、日常の当番活動に植物の水やりが加わった。また、そのエリアに名前をつけようという話になり、相談の結果、【虫ひろば】と名付けることになった。

夏には、公園で捕まえたバッタを虫ひろばに放して観察したり、室内で育てているカブトムシの糞を虫ひろばに撒いて植物の栄養にするなど、虫ひろばがより良い環境になるよう、子どもたちが工夫しながら活動を進めていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

昨年から生き物に関わり、育てる経験をしてきたこともあり、子どもたちは「なぜ園庭に虫がいないのか」という疑問に対して自ら考え始めていた。虫が好む植物についても、公園での観察を通して理解を深め、「どうしたら園庭にも同じ植物を用意できるか」と子ども自身が考える姿があった。

虫ひろばができると、見つけた虫を放して観察し、「ここで卵を産まないと虫が増えないよ」と声を掛け合いながら、捕まえずに見守る姿も見られた。植物が育ち始め、アリやだんごむしなど小さな虫が集まるようになると、「虫が好きな場所になってきているね」と嬉しそうに話し、子どもたちの喜びや達成感につながっていた。

秋には、虫ひろばにカマキリがいることに気づき、「カマキリがいる！」とクラス全体で大喜びする場面もあった。保育者が「どうしてカマキリが来たんだろうね」と問いかけると、「夏に飛んできて卵を産んだのかな」「ここに住みたいと思って来たんじゃない？」と、さまざまな考えを出し合っていた。虫ひろばにいるカマキリを他クラスの子が捕まえようとする場面もあったが、「せっかく来てくれたから、捕まえないで見るだけにしよう」と声を掛け合い、優しく見守っていた。

後期には、飼っていたカブトムシの糞を植物の栄養として撒いたり、気温が下がる中で植物が枯れていくことに気付いたり、虫だけでなく自然の変化にも目を向ける活動へと広がっていった。



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

子どもたちの素朴な疑問から始まった活動だったが、そこから「なぜ」「どうしたらいいか」を自分たちで考え、ひろば作りへとつながり、次々と活動が発展していった。1年の活動を振り返る中で、それは子どもたち自身の疑問や「やってみたい」という思いがあったからこそ生まれた広がりであったと感じている。

また、疑問に思ったことをそのままにせず、みんなで話し合い、考えたことを実際に試してみることが、より主体的で意欲的な活動へとつながることを改めて実感した。虫をテーマにした活動ではあったが、その過程で植物について、土がどんな栄養を含んでいるのか、季節によって植物がどのように変化するのかなど、多くの気づきが生まれた。

今後も、子どもたちの「知りたい」「やってみたい」という気持ちを大切にしながら関わっていきたいと思う。